

① 研究課題名：

名古屋市立東部医療センターにおける婦人科領域の緊急腹腔鏡下手術症例の術前評価と手術結果に関する検討

② 研究の目的：

名古屋市立東部医療センター（以下「当院」）で行った緊急腹腔鏡下手術症例を後方視的に検討することで今後の緊急的な婦人科疾患の診断方法を考察する。

③ 研究期間：西暦 2019年 5月 ～ 2019年 9月 12日

④ 研究実施施設：名古屋市立東部医療センター 産婦人科

⑤ 研究の対象：

2014年1月1日から2018年12月31日までの間に、当院産婦人科にて緊急腹腔鏡下手術を施行した方（緊急腹腔鏡下手術に該当しない開腹緊急手術、帝王切開、膣式手術を施行した方は除く）。

⑥ 調査項目：

① 画像診断の有無

② 画像所見

：MRI・CTにおける付属器（卵巣、卵管）の異常所見（腫大の有無、血流の有無、腹水の貯留）等

③ 実施術式

④ 術中所見

：付属器（卵巣、卵管）腫大の有無（卵巣捻転であれば捻転しているかどうか、卵巣破裂や卵巣出血であれば内容物漏出や出血点があるかどうか、異所性妊娠であれば妊娠部位の同定）

⑤ 手術時間

⑥ 術前病名と術後病名

⑦ 手術合併症

⑦ 研究の方法：

診療録より「⑥調査項目」の情報収集し、症例調査票に記入する。収集した情報を下記の3つの分類を行い、緊急手術が必要となる婦人科疾患の診断方法を調査する。

① 術前病名と術後病名の異なる症例と同一の症例に分類する。

画像診断の有無、画像所見が術前病名確定時に与えた影響を調査する。また、画像所見と術中所見の差異を調査する。

② 腹腔鏡下手術から開腹手術に移行した症例と腹腔鏡下手術のみの症例に分類する。

術前病名と術後病名、画像診断の有無、画像所見、術中所見より開腹手術に移行した原因を調査する。

③ 術前の画像診断の有無で分類する。

画像診断の有無が手術時間、手術合併症の発生にどのように影響しているかを調査する。

#### ⑧ 研究成果の公開

学会発表・論文での公表を予定しています。

#### ⑨ 個人情報の保護

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番し、その番号を用いて症例調査票を作成します。このため、個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない（あなたのデータを使ってほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。

#### ⑩ 利益相反

本研究に係る利益相反はありません。

#### ⑪ 問い合わせ先

研究事務局	所属	研究責任者
名古屋市立東部医療センター 住所：〒464-8547 名古屋市千種区若水1丁目2番 23号	産婦人科	神谷 将臣 TEL：052-721-7171（代 表）